

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年2月9日

**【四半期会計期間】** 第46期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

**【会社名】** 株式会社精工技研

**【英訳名】** SEIKOH GIKEN Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 上野 昌利

**【本店の所在の場所】** 千葉県松戸市松飛台296番地の1

**【電話番号】** (047)388 - 6401

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 齋藤 祐司

**【最寄りの連絡場所】** 千葉県松戸市松飛台296番地の1

**【電話番号】** (047)388 - 6401

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 齋藤 祐司

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第45期 第3四半期 連結累計期間	第46期 第3四半期 連結累計期間	第45期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(千円)	9,327,807	10,138,195	12,644,339
経常利益	(千円)	994,929	837,786	1,164,808
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	662,723	778,858	800,674
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	18,572	838,327	502,267
純資産額	(千円)	21,046,702	22,244,140	21,567,541
総資産額	(千円)	24,327,511	25,710,411	25,026,123
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	71.79	84.26	86.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	86.5	86.4	86.2

回次		第45期 第3四半期 連結会計期間	第46期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	25.68	25.73

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第45期及び第45期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
5. 第46期第3四半期連結会計期間の純資産額には、当社役員への業績連動型株式報酬として信託が保有する当社株式が自己株式として計上されております。また、同期間の1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数は、当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

#### 2 【事業の内容】

平成29年4月に、それまで持分法適用関連会社であったDATA PIXEL SAS社(フランス)の発行済株式の48%を追加取得し、連結子会社化いたしました。これにより、当第3四半期連結累計期間末現在の当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(株式会社精工技研)、連結子会社7社(SEIKOH GIKEN USA, INC.、SEIKOH GIKEN EUROPE GmbH、杭州精工技研有限公司、大連精工技研有限公司、香港精工技研有限公司、不二電子工業株式会社、DATA PIXEL SAS)の計8社により構成されております。なお、連結子会社のうち香港精工技研有限公司につきましては、平成22年9月に営業を停止し、現在は休眠化しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、引き続き緩やかな回復基調で推移しました。米国経済はハリケーンの影響が一巡し、企業の業況は堅調さを取り戻しています。昨年、欧州の主要国で行われた選挙では、EUに対して懐疑的な姿勢の政党が勢力を伸ばすケースが見られたものの、政治的混乱は無く、欧州経済は製造業を中心に堅調に推移しました。中国においては投機抑制策により不動産市場が沈静化に向かう等、減速感はあるものの、総じて安定的な経済成長が続きました。こうした堅調な海外経済を背景に、我が国も景気の回復が続いています。企業の生産活動や設備投資は増加傾向にあり、雇用・所得環境や個人消費も回復基調で推移しました。

当社グループが関わるエレクトロニクス関連の市場においては、IoT (Internet of Things) やAI (人工知能) 技術を利用した製品やサービスの拡大に拍車がかかりました。民生用途では音声指示によりニュースや音楽を聴いたり、家電を操作したりすることができるAIスピーカーの普及が進みました。カーエレクトロニクスの分野では、自動運転の実験が公道で行われる等、実用化に向けた動きが加速しています。スマートフォン市場では、主要メーカーからリリースされた新機種が話題を集めました。市場の反応は限定的に留まりました。

こうした中で当社グループは、前連結会計年度から取り組み始めた中期経営計画『マスタープラン2016』に基づき、「既存事業の収益力強化」、「事業ポートフォリオの最適化」、「経営基盤の強化」の各施策の遂行に努めました。

「既存事業の収益力強化」に向けては、精密成形品や各種の金型、精密金属加工部品等を主力製品とする精機事業、光通信部品とその関連機器、無給電光伝送装置等を主力製品とする光製品事業の両セグメントにおいて、販売力と価格競争力を強化すると共に、新製品・新技術の開発に取り組みました。

「事業ポートフォリオの最適化」に向けては、昨年4月、持分法適用関連会社であったフランスの測定装置メーカー、DATA PIXEL SAS社の株式を追加取得して連結子会社化し、当社グループの事業領域の拡大を図りました。

「経営基盤の強化」に向けては、子会社の統治体制を強化し、将来に向けてよりシナジー効果を創出しやすいグループ体制の構築に努めました。

こうした結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は10,138,195千円（前年同四半期比8.7%増）となりました。損益面では、採算性の良い製品の販売が伸び悩んだこと等により、営業利益は702,969千円（前年同四半期比22.2%減）、経常利益は837,786千円（前年同四半期比15.8%減）となりました。DATA PIXEL SAS社の子会社化に伴う株式の段階取得に係る差益を特別利益に計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は778,858千円（前年同四半期比17.5%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 精機事業

精機関連では、車載用成形品の生産を、昨年北海道千歳市に開設した新工場に徐々に移管すると共に、静岡県の既存工場に空いたスペースでは新製品の量産検討を行いました。電子機器向けの金属プレス成形品は一部製品の需要が停滞したものの、大容量データを収納できるアーカイブ光ディスク成形用金型や、精密金属部品加工等の販売は伸長しました。その他の精密成形品の拡販に向けては、展示会やホームページ等を通して当社グループの製品や技術を広くアピールし、新しい顧客との接点を増やす一方、引き合いをいただいた顧客と密なコンタクトを図りながら、成形品の量産化に向けた技術課題の解消に取り組みました。併せて、創業以来培ってきた精密金型技術や薄肉成形技術、微細転写技術を応用し、医療、バイオ等の新しい市場に向けて、より付加価値の高い精密成形品の開発に注力しました。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の精機関連の売上高は、5,742,833千円（前年同四半期比0.7%増）となりました。採算性の良い金属プレス成形品の売上高が減少したこと等により、営業利益は403,301千円（前年同四半期比25.2%減）となりました。

#### 光製品事業

IoTやAIを活用した技術やサービスの拡大を背景に、インターネットを介して流通するデジタル情報データの量は急増しており、世界を結ぶ光通信網の敷設や、ビッグデータを処理・保管するデータセンター等の設置が積極的に進められています。需要が増加している光通信部品には、大容量高速通信に適した多心化が求められており、当第3四半期連結累計期間には、多心光コネクタの端面研磨に係る作業性能を一段と向上させた新型光コネクタ研磨機を市場にリリースしました。また昨年4月には、光通信部品の検査装置や測定装置の分野において世界的なトップブランドであるDATA PIXEL SAS社（フランス）の株式を追加取得し、連結子会社に加えしました。光通信以外の分野では、放送業界の展示会に出展し、テレビ中継の電波を光ファイバーで伝送する無給電光伝送装置の拡販にも取り組みました。これらの結果、当第3四半期連結累計期間の光製品関連の売上高は、4,395,361千円（前年同四半期比21.3%増）となりました。前年同四半期に好調に推移した無給電光伝送装置の売上高が減少したこと等により、営業利益は299,668千円（前年同四半期比17.8%減）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当社グループの研究開発活動の内容は、新しい事業領域に向けた新技術や新製品の開発と、既存事業領域における製品改良や生産技術の改善に大別されます。

新しい事業領域に向けた新技術や新製品の開発は、全社共通の研究開発部署及び精機関連・光製品関連の両事業セグメントにおいて実施しております。当第3四半期連結累計期間における研究開発費は、金型に施した極めて微細な凹凸を正確に転写し、金属のように光沢のある成形品の大量生産を実現する加飾成形技術の開発や、高速大容量化が進む光通信市場に向けた新製品、超小型レンズ等の開発に取り組んだ結果、105,301千円となりました。一方、既存事業領域における製品改良や生産技術の改善は、精機関連・光製品関連の両事業セグメントにおいて実施しており、当第3四半期連結累計期間にこれらの活動に要した費用は197,228千円となっております。これにより、当第3四半期連結累計期間における研究開発活動費用の総額は302,529千円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,333,654	9,333,654	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	9,333,654	9,333,654		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日		9,333,654		6,791,682		10,571,419

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 38,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,293,300	92,933	同上
単元未満株式	普通株式 2,254		
発行済株式総数	9,333,654		
総株主の議決権		92,933	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」には、業績連動型株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式51,600株が含まれております。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式19株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社精工技研	千葉県松戸市松飛台296番地の1	38,100		38,100	0.41
計		38,100		38,100	0.41

(注) 自己株式には、業績連動型株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式51,600株は含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,837,016	9,881,025
受取手形及び売掛金	2,696,445	2,910,348
商品及び製品	397,706	407,585
仕掛品	483,680	462,414
原材料及び貯蔵品	851,628	917,942
未収還付法人税等	104,316	87,622
その他	589,266	613,993
貸倒引当金	5,921	5,420
流動資産合計	14,954,137	15,275,511
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,271,923	6,278,064
減価償却累計額	3,770,605	3,898,311
建物及び構築物(純額)	2,501,317	2,379,753
機械装置及び運搬具	5,189,891	5,654,400
減価償却累計額	3,989,115	4,200,084
機械装置及び運搬具(純額)	1,200,775	1,454,315
土地	2,335,796	2,335,796
建設仮勘定	407,227	535,027
その他	4,886,516	5,135,623
減価償却累計額	4,445,538	4,598,467
その他(純額)	440,978	537,155
有形固定資産合計	6,886,095	7,242,048
無形固定資産		
のれん	1,554,822	1,779,128
顧客関連資産	414,577	364,156
その他	108,922	96,255
無形固定資産合計	2,078,322	2,239,540
投資その他の資産		
投資有価証券	222,978	54,344
投資不動産	844,380	860,632
その他	40,208	38,334
投資その他の資産合計	1,107,567	953,311
固定資産合計	10,071,985	10,434,900
資産合計	25,026,123	25,710,411



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,161,901	1,298,836
未払法人税等	157,592	133,665
賞与引当金	86,609	43,399
その他	1,019,395	923,296
流動負債合計	2,425,498	2,399,198
固定負債		
退職給付に係る負債	767,748	795,477
役員株式給付引当金		25,724
長期未払金	145,070	145,070
長期預り保証金	8,566	
長期預り敷金	19,037	19,037
繰延税金負債	53,524	42,902
その他	39,136	38,862
固定負債合計	1,033,082	1,067,073
負債合計	3,458,581	3,466,271
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,791,682	6,791,682
資本剰余金	10,571,419	10,571,419
利益剰余金	3,952,267	4,517,559
自己株式	197,761	169,136
株主資本合計	21,117,608	21,711,526
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,392	15,516
為替換算調整勘定	480,206	522,330
退職給付に係る調整累計額	36,666	31,417
その他の包括利益累計額合計	449,933	506,429
新株予約権		12,744
非支配株主持分		13,440
純資産合計	21,567,541	22,244,140
負債純資産合計	25,026,123	25,710,411

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	9,327,807	10,138,195
売上原価	6,308,267	6,990,278
売上総利益	3,019,539	3,147,916
販売費及び一般管理費	2,115,849	2,444,946
営業利益	903,690	702,969
営業外収益		
受取利息	4,811	6,239
受取配当金	548	835
補助金収入	6,987	90,338
投資不動産賃貸料	32,638	33,715
持分法による投資利益	14,582	-
為替差益	30,031	-
その他	11,158	18,375
営業外収益合計	100,758	149,504
営業外費用		
不動産賃貸原価	7,279	7,188
為替差損	-	6,160
その他	2,239	1,340
営業外費用合計	9,519	14,688
経常利益	994,929	837,786
特別利益		
固定資産売却益	5,724	874
段階取得に係る差益	-	255,690
特別利益合計	5,724	256,565
特別損失		
固定資産売却損	810	250
特別損失合計	810	250
税金等調整前四半期純利益	999,843	1,094,101
法人税、住民税及び事業税	342,526	328,457
法人税等調整額	5,407	16,187
法人税等合計	337,119	312,269
四半期純利益	662,723	781,832
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	2,973
親会社株主に帰属する四半期純利益	662,723	778,858

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	662,723	781,832
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	5,855	9,123
為替換算調整勘定	662,173	42,123
退職給付に係る調整額	5,577	5,249
持分法適用会社に対する持分相当額	30,555	
その他の包括利益合計	681,295	56,495
四半期包括利益	18,572	838,327
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,572	834,221
非支配株主に係る四半期包括利益		4,106

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度において持分法適用関連会社であったDATA PIXEL SASIは、株式の追加取得に伴い、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(取締役に対する業績連動型株式報酬制度の導入)

当社は、平成28年6月17日付株主総会決議に基づき、業績連動型株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入しております。本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託が当社株式を取得し、役員、業績達成度等に応じて当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が、本信託を通じて各取締役に交付されるという業績連動型の株式報酬制度です。本制度は、当社の取締役(社外取締役及び監査等委員である取締役を除く。以下も同様。)の報酬と当社の中長期的な業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず株価下落によるリスクまでも株主の皆様と共有することにより、当社の持続的な成長と企業価値向上に貢献する意識を高めることを目的として導入しております。

当該信託に関する会計処理については、経済的実態を重視する観点から、当社と信託口は一体であるとする会計処理を採用しており、信託口が所有する当社株式を含む資産及び負債並びに費用及び収益については、当社の四半期連結財務諸表に含めて計上しており、信託口が所有する当社株式は、四半期連結貸借対照表の純資産の部において自己株式として表示しております。なお、当四半期連結会計期間末において、信託口が所有する当社株式の帳簿価額は85,088千円、また、株式数は51,600株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

次のとおり、ファクタリング債務に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
ノエル・カンパニー・リミテッド	76,309千円	115,804千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	千円	15,544千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	647,522千円	655,457千円
のれんの償却額	189,048 "	231,809 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月17日 定時株主総会	普通株式	147,212	16	平成28年3月31日	平成28年6月20日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月16日 定時株主総会	普通株式	184,879	20	平成29年3月31日	平成29年6月19日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	精機関連	光製品関連	合計
売上高			
外部顧客への売上高	5,704,558	3,623,248	9,327,807
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,526	260	2,786
計	5,707,084	3,623,508	9,330,593
セグメント利益	539,120	364,569	903,690

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	精機関連	光製品関連	合計
売上高			
外部顧客への売上高	5,742,833	4,395,361	10,138,195
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,851	240	6,091
計	5,748,684	4,395,601	10,144,286
セグメント利益	403,301	299,668	702,969

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「光製品関連」セグメントにおいて、DATA PIXEL SASの株式を取得し、連結子会社といたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては407,862千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	71円79銭	84円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	662,723	778,858
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	662,723	778,858
普通株式の期中平均株式数(株)	9,231,128	9,243,943
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

- (注) 1.前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2.当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 3.当第3四半期連結累計期間については、役員向け業績連動型株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式を四半期連結貸借対照表の純資産の部において自己株式として計上しており、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(当第3四半期連結累計期間51,600株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

株式会社精工技研  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飯野健一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 森田浩之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社精工技研の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社精工技研及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。